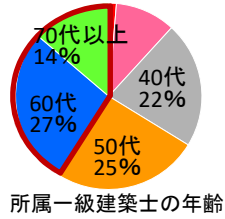


【BIMを活用した建築生産・維持管理プロセス円滑化モデル事業】

現状把握

○建築分野の技術者は不足・高齢化

- ✓ 建築士事務所に所属する一級建築士（約14万人）は約4割が60歳以上で、年々減少・高齢化が進展※



○建築分野のBIMの導入率は不十分

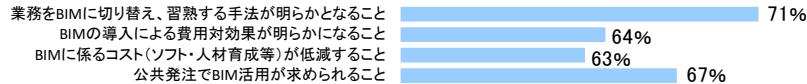
- ✓ 設計・施工者等のBIM導入率は46%にとどまる【BIMの導入状況 (n=813)】



○導入していない場合には、CADからの業務転換や費用対効果等が課題

- ✓ 導入に関心がある約7割が、導入決断には共通して業務転換手法の課題があり、また費用対効果が明らかになる必要があると回答

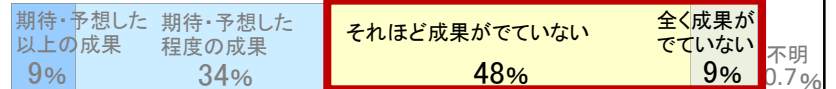
【導入していない場合の、今後BIMの導入を決断する契機 (n=218)】



○導入しても、期待通りの成果が出ていない場合も多い。

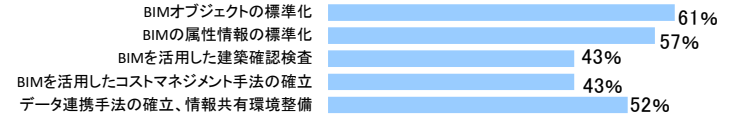
- ✓ 業務の効率化を期待して導入した約6割で、期待通りの成果が出ていない

【業務の効率化を期待してBIM導入した場合の現在の評価 (n=293)】



- ✓ 関連して、約6割が、技術的な共通課題（データの標準化や連携手法、コストマネジメント手法の確立、BIMを活用した確認申請等）の解決を期待

【今後期待する事項 (n=376)】



○「建築BIM推進会議」での官民の役割分担の検討

- ✓ BIMの活用・導入のボトルネックとなる課題の解決による環境整備：国
- ✓ BIMの活用・導入促進：民（関係団体）

※令和2年4月時点（それ以外は令和2年12月時点）いずれも国土交通省調べ

課題設定

○建築分野の技術者の不足・高齢化に対応するため、BIMを活用・普及させ、生産性向上を図る。(i-Construction)

○そのために国は「BIMの導入決断を促す環境整備」・「BIMを効果的に導入した場合に適切に効果が出るような環境整備」を行う。

※BIMの導入促進については、建築BIM推進会議のもと、関係団体を中心に検討。

インプット

- BIMを活用した建築生産・維持管理プロセス円滑化モデル事業
 - ・実施期間：R2～4（計画）
 - ・R2予算額：196百万円
 - ・R3予算額：200百万円

アクティビティ①

- 事業における実際の建築プロジェクトでの検証
- 検証内容を踏まえた建築BIM推進会議での議論（学識者＋関係24団体で構成）
 - <検証内容>
 - ・BIMを効果的に活用するための共通課題の解決
 - ・BIMの導入・活用のインセンティブとなる、BIMの定量的な効果の提示

アウトプット①

- モデル事業で支援する実際の建築プロジェクトでの課題や効果の洗い出し・公表

アクティビティ②

- 本事業の結果を活用し、建築BIM推進会議において課題解決のガイドラインを令和4年度までにとりまとめ、公表

アウトプット②

- 建築業界内でのBIMの活用・導入に係る共通課題の解決

アウトカム

- 建築業界内での、ガイドラインに基づくBIMの有効活用・導入の加速
 - ※建築BIM推進会議のもと、関係団体と連携したBIMの活用・導入促進

インパクト

- 建築分野のBIMの効果的な活用・普及による生産性向上